

令和5年度 上田市立傍陽小学校 自己評価シート 職員用

A：達成できた B：概ね達成できた C：達成までに努力が必要である D：達成までにさらなる努力が必要である。

評価方法 ア…教師自身による評価 イ…校長による評価 ウ…子どもの評価 エ…保護者からの評価 オ…学校関係者による評価

令和6年3月1日

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価								
ここに笑顔 どきどき挑戦 とんとん響き合う 傍陽の子	○健やかな心と体…自他の命と人権を大切に伸びようとする子、 体を動かし、遊び学んで生きぬく身体をつくる子 ○原体験の感動と語り…原体験にひたり楽しめる子 思い・考えを持ち、友と深める子 自ら判断して、表現する子 ○確かな学びと支えあい…思いやり、協力し合える子 個の学びの確立と学力の向上、共に伸びる 喜びを感じる子			<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、150周年記念式典に向けて全校で取り組んできた。地域についての学習、オリジナルソングを中心としたステージ発表に向けての練習を通して、傍陽地区や傍陽小学校の良さを感じることができた。また、それを式典で発表することで保護者のみなさんや地域の方々に見ていただく機会となり、見ていただいた方から褒められたり認められたりし、子どもたちの自信につながった。 ・地域探検や川遊び等の地域に関する学習や記念式典に向けての練習を通して、友と一緒に活動する楽しさやみんなと作り上げる喜びを感じる事ができた。 ・たてわり清掃やなかよし給食を行い、異学年との活動や交流をすることで、年齢を超えて協力したりお互いに思いやりたりする様子が多く見られた。 ・「表現」することに焦点を当てて、学習活動を行ってきた。「言わなくても分かる」関係性がある中でも、言葉で伝えることや自分なりに表現することを大事にしながら授業を行うことができた。 								
	今年度の重点目標			評価方法	成果と課題			A	B	C	D	改善策・向上策
	1	太陽のような	あいさつ・ことば	ア	・常に教師の側から声をかけるように意識できた。 ・150周年記念式典に向けて、地域についての学びを深めたり、共と作り上げたりする経験ができた。			○				・さらに傍陽のよさ、傍陽小のよさを感じられる学習を創造していく。 ・積極的に協働の場面を設定し、同学年、異学年問わず、友と関わる楽しさや喜びを感じられるようにしていく。
	2	傍陽に遊び学んで	思いをかたる	ア				○				
3	支えあう仲間	個と協働の学び	ア				○					
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法								
学校教育	生徒指導・生活指導	挨拶・返事・感謝の言葉	教師自らが、子どもと関わりながら挨拶や返事、感謝の言葉を率先して伝え、子どもたちのコミュニケーション力が高まるように指導したか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の側からの働きかけ、声かけを意識できた。 ・どんな時でも言葉で伝えることを大切にしてきた。 ・子どもの話をよく聞くことももっと意識したい。 			○				・学校生活のあらゆる場面で、言葉を交わす機会を大切にしている。 ・小規模校ならではの良さを生かし、クラスを超えて、名前呼び合い、積極的にあいさつができるようにしたい。
		自他を大切に、共に伸びる喜び	子どもを「～さん」と呼び、思いや言葉をかけ、人権教育の視点に立ち、認め合い支え合う人間関係を指導したか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「～さん」と呼ぶことが当たり前になっている。 ・子どもたちの成長をクラスの中で共有できた。 ・子どもを1人の人間として尊重する感覚を持てた。 			○				・すべての子どもがそれぞれの良さを持っていることを常に忘れない。 ・子どもを1人の人間として尊重する感覚を持ち続ける。 ・言い方の違いによる感じ方の違いを気づかせていきたい。
	学習活動	表現を通した心の解放	思いや感じたことを言語化し、相手に伝える力を育むための指導を行ったか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・表現のよりどころになる「雛型」「定型」を活用できた。 ・「書きたい」という気持ちを汲み取って指導できた。 ・あらゆる表現方法を認められた。 			○				・伝える必要感が感じられる場面設定をしていきたい。 ・言語化の困難な児童への丁寧な指導を考えた。 ・学習カード、タブレット、視覚支援に有効なツールなどを活用したい。
		地域を舞台にした、地域教材の創造	地域に出かけ、地域を舞台にした教育活動を創造し、原体験にひたり、楽しむ中で感動や思いが得られる支援を行ってきたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域探検や川遊びなど、地域に出て学習できた。 ・150周年記念式典で地域に関することやオリジナルソングを発表することで、満足感や達成感を得られた。 			○				・教師自身ももっと地域に出かけ、材を見つけ、活動を仕組んでいきたい。 ・傍陽のよさを感じられる授業の創造 ・地域の人、もの、ことの発掘
		子どもの視点に立った授業改善	子どもが自ら課題をもって追究し、「できた」「わかった」と感じられるように、ねらい・めりはり・見とどけを意識した授業改善をしてきたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の頑張りや伸びを意識させることができた。 ・「見とどけ」を意識した授業展開ができた。 ・振り返りから課題を改善できるよう指導ができた。 			○				・「分からない」が言える人間関係づくりをしたい。 ・子どもが自ら課題をもって追求する道筋を大切にしたい。 ・基礎基本を定着させる時間を確保し、その上で自ら課題解決する授業へ。
		考えを聞き、話し合い、深めることのできる授業	課題解決のため、考えを伝え合い、聞き合い、話し合うことを通して、自分の考えを深めていく指導を行ったか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方や聞き方の指導ができた。 ・一方的に教えず、なぜそうなったのかを考えさせ、語らせることを意識した授業を行えた。 			○				・考えを伝え合う場面の設定をしっかりとしたい。 ・考えを深める授業はどうあったらよいか考えていく。 ・生きる力、課題を自ら見つける力をつけていきたい。
		異年齢での活動	さまざまな学習や活動の場面で、異年齢の子どもたちがふれ合い交流できるように工夫をしてきたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で異学年を招待した授業を行えた。 ・たてわり清掃やなかよし給食で異学年の子どもたちが触れ合う機会を作れた。 			○				・個々の願いを考えながら交流場面を探っていききたい。 ・何ができそうか、さらに精査していききたい。 ・授業の中で異学年と交流できる場所は探りたい。
	学校生活	子どもたちへの励ましや賞賛	子どもたちの話に耳を傾け、頑張りや認めたり、励ましたりするように心がけてきたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・相談時間の中で1人ひとりとじっくり話すことができた。 ・自分の良さに気づけたり、見方を変えたりすることができる声かけが心がけた。 			○				・子どもの良い姿を見逃さないように留意したい。 ・安心できるような声かけを行っていききたい。 ・頑張らないと認められたい、とならないように気をつけたい。
		楽しい学校づくり	子どもたちが楽しいと思える学級・学校づくりに努めてきたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがやりたいことを取り入れた学習ができた。 ・みんなのことが優先ということを徹底してきた。 ・楽しく学べるような工夫をした。 			○				・居場所としての安心感を感じられるような学級づくりをしていきたい。 ・ホッとできる場所をいくつも用意できる学校でありたい。 ・子どもの「楽しさ」が何なのか、探っていききたい。
	学校運営	学校づくり	家庭との連携 地域と共に歩む学校づくり	子どもの成長を願うことを基盤に、保護者との連絡を密にし、共通理解をはかりながら教育活動の充実に努められたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に子どもの様子を伝え、必要に応じて相談をした。 ・連絡帳や電話の活用だけでなく直接会って話す機会を大事に考えた。 			○			
情報発信			学校の願いや児童の活躍の様子等が伝わる情報が発信できたか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、学校だよりには写真を入れるようにし、視覚的に分かるように心がけた。 ・ホームページにも児童の様子を掲載してきた。 			○				・より伝わる情報発信を心がけたい。 ・地域への発信をどのようにしていくか、工夫をしていきたい。 ・写真の活用、端的な表現を心がける。
危機管理			常に学校環境を見直し、児童の安全・安心を確保しているか。教育公務員として非違行為防止に努めているか。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の環境に配慮することができた。 ・悲しい思いをさせないように努めてきた。 ・非違行為防止研修を毎月行い、気をつけてきた。 			○				・児童の安全、安心の確保を確実にしていきたい。 ・非違行為防止研修を行い、非違行為を絶対に出さないようにしたい。 ・慣れ、当たり前を疑う姿勢をもちたい。